

(1) 2018(平成30)年11月 1日発行

国際ロータリー 第2500地区 第4分区

遠軽ロータリークラブ

第2894回 通常例会記録

日時：2018年10月25日(木)12:30～

会場：ホテルサンシャイン 2F

司会：上田 稔 SAA

- ★開会点鐘：遠藤 利秀 会長
- ★国歌：-
- ★Rソング：それでこそロータリー
- ★四つのテスト：-



インスピレーションに

なろう

2018-19 RIテーマ

<ロータリー財団月間>

2018～2019 Weekly Report No.15

THE ROTARY CLUB OF ENGARU, AREA 4, RID2500

本日のプログラム

2018年11月 1日(木) 12:30～

国際奉仕、韓国語教師から思うこと
講師：金 道詠(キム・ドヨン)様

次のプログラム

2018年11月 8日(木) 12:30～

ゲスト卓話：今井 昌幸 様
遠軽町総務部地域拠点施設準備室参事

遠藤利秀会長ターゲット：共に汗をかいて感動を～一流を目指し～

◇本日のゲスト

- 遠軽信用金庫 本店営業部 高本 啓太 様②
- 遠軽信用金庫 中湧別支店 川口 元基 様③

会長報告 遠藤 利秀 会長①

本日のプログラムはライラセミナーの報告です。セミナーに参加していただいた遠軽信用金庫の川口さん、高本さん、青少年奉仕委員長の黒坂会員たいへんお疲れ様でした。本日はライラセミナーの報告よろしくお願いたします。また、お二人を派遣していただいた島田会員、そして遠軽信用金庫さんに感謝申し上げます。

ライラはロータリー青少年指導者養成プログラムで年齢14歳から30歳までの方を対象にスキルと人格を養いながら、奉仕、高い道德基準、平和といったロータリーの価値観を学ぶ機会を提供することを目的としています。ライラを通じて、地域社会の若者たちがリーダーや良き市民としての資質を養い、人間として成長するのを助けることができます。

ライラに参加した若者が多くのことを学び、多くの人と知り合ってネットワークを広げることによってリーダーシップ能力を高め職業人のリーダーとなる人材が育つことが、地域社会の活性化へも繋がっていきます。

今回ライラに参加されたお二人は、たまたま今年の富士登山駅伝競走大会の応援で一緒に行っていて二人ともしっかりした青年ですが、このライラセミナーを契機としてさらに飛躍をされ、遠軽信用金庫、ひいてはこの遠軽町を引っ張ってってくれるような人材に育ってくださることを期待しています。

幹事報告 東海林 勉 幹事

1. 10月12日、乾禧實会員の御母堂様の逝去に際し、家族葬のため訃報を出しませんでした。規定により香典、供花、弔電を出しました。
2. ロータリー財団補助金管理セミナーの案内。11月25日(日)、帯広にて13時～15時。
3. 11月21日(水)開催の2クラブ合同例会への参加者がもっと増えますようにお願いします。
4. 本日、例会終了後、理事会を開催します。



本日のプログラム ライラ報告

黒坂 貴行 青少年奉仕委員長④

9月1、2日の士別グランドホテルで開催された「北国の地方創生地域と未来のために」をテーマとした第38回ライラセミナーin士別に、遠軽信用金庫の川口元基さんと高本啓太さんの3名で参加してきました。お二人の参加に対しまして、島田理事長にご尽力頂き、誠に有難うございました。

第2500地区の30クラブから60名の青年参加者と24クラブから39名のロータリアンが参加者。

開講式⑤から始まり、集合写真撮影、「羊と雲の丘」を視察⑥。続いて基調講演として「北国の地方創生」をテーマに、河西邦人札幌学院大学商学部教授の講話がありました。4地域の事例をもとに、地方創生の課題と成功事例の話があり、さらに「北国の地方創生」とは、何をどう活かせばいいのか？ などの説明から、3つのまとめが提案されました。その後の17時から22時までのグループディスカッションでは「まとめ」を基に、間に懇親会を挟みながら、意見を交換しました。お酒も少々入り、第2部のグループディスカッションでは、仲間意識が高まったようです。

翌日は8時から、全体会議と各グループ意見発表、感想文提出、閉講式というスケジュールで、11時に終了しました。タイトなスケジュールでしたが、お二人には今回のセミナーで得た経験、体験を十分活かしてもらいたと思います。

今後の益々のご活躍に期待いたします。

【名前の後の○数字は写真とその中の番号】

第38回 ライラセミナー in 士別

2018年 9月 1(土) 2(日)

RYLA ホストクラブ：士別ロータリークラブ メイン会場：士別グランドホテル



「ライラセミナーに参加して」

遠軽信用金庫 本店営業部 高本 啓太 様②

この度は、ライラセミナーに参加させていただきありがとうございました。本セミナーは「北国の地方創生～地域の未来のために」をテーマとして、2日間に渡り士別市で開催されました。

初日は「羊と雲の丘SUFFOLKLAND」の視察⑥と、札幌学院商学部河西教授の基調講演を受けた後、グループディスカッションを行い、2日目は、初日のディスカッションでまとめた地方創生プラン等を発表するプログラムでした。

初日のグループディスカッションは緊張しましたが、同世代ということですぐに打ち解けることができ、未来の地域発展について活発な意見交換をすることができました。

参加者は全道各地から来ており、それぞれの地域の特色や従事する職業が異なることから、私が思いもよらないアイデアや意見が飛び交い、大変刺激を受けた2日間となりました。また、各グループの意見発表では、各地域の特色を活かした取組みや、地方創生が成功している事例発表もあり大変参考となるものでした。

河西教授の基調講演では北国の地方創生や、日本の各地域で行われている地方創生の取組についてお話を聞きました。そのなかでも島根県海士町で行われている凍結させた生鮮食品を移動距離に関係なく取れたての鮮度と美味しさを維持できるCAS技術についてのお話がとても印象深く残っています。

海士町ではCASセンターという技術研究所が設立されており、CAS技術を活用し、遠隔地の東京や大阪といった大都市に鮮度の良い魚介類をお届けすることに成功し大変高い評価を得ているそうです。

CAS技術とは生鮮品をパルス磁場という特殊な磁場を用いて、細胞に微振動を与えることで、自己組織化を促し鮮度を維持する技術であり、それに凍結技術を加えることで、より鮮度維持が可能となるものです。この技術は海産物や農産物の宝庫である北海道や当地遠軽町においても活用できるものではないかと思い基調講演を聞き湧き上がってきました。

今回のセミナーを通じ、私たちがいつも見慣れている光景が他地域の方から見るととても魅力的であるものの、残念ながら私たちにはその魅力を見過ごしていることに気づかされました。

私たちの町、遠軽町にもまだまだ気づいていない魅力や地方創生のヒントが隠れていると思います。今後隠れた魅力を見つけ発信していくことが私たち若者の役割であり使命であるとも考えます。

今回知り合った同年代の仲間たちとタッグを組み、より良い遠軽町、より良い北海道を目指し、微力ながら自分も貢献したい思いが改めて強くなりました。

最後となりますが、本研修に参加させていただき大変、刺激を受け自分にプラスとなったことを報告して、終わらせていただきます。

北国の地方創生～地域の未来のために～

RI第2500地区 2018-2019 青少年指導者育成プログラム [Rotary Youth Leadership Award]



第38回ライラセミナー

遠軽信用金庫 中湧別支店
川口 元基 様③

この度は、「第38回ライラセミナー」を受講させていただき大変有難うございました。

今年は、「北国の地方創生」をテーマに、講師による基調講演や、班ごとのグループディスカッションを通じ、北海道の問題と向き合うことができました。

基調講演では北海道各地域が抱える様々な問題（人口減少、雇用問題等）についての分析内容と解決方法のヒントや事例を学びました。地方創生の基本目標は、「安定した雇用の創出」「地方への人の流れをつくる」「若い世代の結婚や出産の支援」等があげられ、どれかが欠けても地方創生の実現には至らないということがよくなりました。

また、これらの課題解決に向けた活動には人材や労力が欠かせなく、人口の減少や高齢化による担い手不足という第二第三の問題にも各地域、各市町村が直面している事実がありました。

今回は「北国の地方創生」がテーマであるため、北国の持つ特徴、気候、自然、文化、産業等を活かすための手段をグループディスカッション形式で意見交換をしましたが、似たり寄ったりな意見や、既存の意見が多く、各人が取り組んでいる中、誰も成功していない新たな取り組みをするということは容易ではないと、ライラセミナーに参加し真剣に向き合うまで気づくことができなかった点でした。

講師の先生による基調講演では、北海道外3地域の取り組みについての講話があり、雇用の増加や人口の流出を防ぐ取り組みや工夫を紹介していただきました。



なかでも岡山県西粟倉村では、木材（間伐材）の加工、管理、販売をすべて村で完結させており、村内でお金と雇用が回るシステムを構築していました。また、成功の要因の一つには、外部のコンサルタントを雇ったことにより外からの客観的な意見を反映させ、視野を広げたことが挙げられていました。外部のコンサルタントを中心に取組んでおり、コンサルタントは村に住み込み、専属として活動しているとのことであり、また、コンサルタントは、村長が自らの一身を賭けて招いたとのことでした。今回紹介のあった3地域の事例は、すべて人口が5,000人にも満たない地域であり、（岡山県西粟倉村1,400人、島根県海士町2,400人、徳島県神山町4,800人）住民や行政、企業等、町が一体となった小回りの利く成長戦略による功績が大きいと感じましたが、このような各地域の成功事例は、木材のみならず、資源豊富な遠軽町に置き換えて考えても、工夫やアイデア次第では実現可能な事例だと感じました。

班ごとのグループディスカッションでは、SWOT分析を用いて、自分の住む町や地域の強みと弱み、機会、脅威を挙げ、活発に討論を繰り広げました。

班ごとの発表では、人口流出、都市計画、観光、災害対策、環境などのカテゴリーに分け、グループディスカッションで提起した問題点に対する改善策をまとめ発表いたしました。初対面の班員と一つの課題を取り組むにあたり、コミュニケーション能力や積極性、協調性など、業務や私生活においても生かせることを班員から学ばせていただきました。今後は、各市町村の出会った同年代の方たちとの交流を大切にしていきたいと思っております。

2018-19 地区大会報告：指導者育成セミナー

2019年規定審議会を見据えて

～柔軟性導入は真の解決策なのか・RIのベンチマークはLCI?～

東海林 勉 幹事

大会第1日目、2018年9月28日(金)午後3時より約1時間、講師に地区研修リーダー：小船井修一PDG(釧路RC)を迎えて標記セミナーが開催され、藤田禮三地区IA委員長と参加しました。

1. 地区を取り巻く課題：実現する未来への対応
人口減少と情報化のパラダイムシフト(価値観の転換、枠組みの変動)により、東京、ブロック都市への人口集中が起こり、大都市こそがロータリー(以下「RTN」という)過疎地域であり、全地域での高齢化の進展と人口減少により、従来型のクラブ運営では限界に来ている。

情報社会の進展によりリアル店舗の減少、事業承継者不足(後継者不在率66.5%)による廃業加速、事業者数の減少と寡占化が進み、RTNの源泉である中小企業は減少している。また、高齢化と人口減少の中で「重高齢社会(75歳以上の後期高齢者が高齢者全体の半数を超える)」の到来となった。未来の労働力は女性や外国人に頼ることになる。

2. 地区会員数の現状・未来

RTN密度1万人当たり東京の2地区平均は5.38人。全国平均7.03人だが、2500地区は2倍の15.08人である。しかし、2500地区の現在会員数2,282人も2040年を推計すると1,578人、▲700人!

3. 2019年規定審議会(COL)を見据えて

1970～1998年までの、そして2001～2013年までの規定審議会の経過から、国際ロータリー(RI)が改革を目指すものとして、先の2016規定審議会で、規制緩和が会員増強になるという「仮説」を前提にした理事会制定案が採択されて「柔軟性」・「革新性」が導入された訳だが、これが真の解決策になるのか? と。2019COLキーワードは現代化と改革スピードアップ!

4. LCIはRIのベンチマーク(基準)なのか?

実は、ライオンズクラブ(LC)創設時(1917年)のベンチマークがRCであったことを再認識すべきである、と。LC創始者メルビン・ジョーンズはシカゴのビジネス・サークル(一説にはRC?)会員だった。3年間、全米のビジネス・サークル(RC?)を訪問し、より良い形を模索して、彼の呼びかけに呼応した全米12のRCが集団でスピアウトして基礎になって出来たのがLC。

近年、会員増加著しいライオンズクラブ国際協会(LCI)の「改革」を参考にすべきなのか!? 日本のLCには問題もあるようだが、しかしLCは毎年の世界大会でルールを改定していて、3倍のスピードで変更(変革)しているという。従って、RIも規定審議会を2年に一度、決議審議会で制定案審議を毎年に変更する、つまりRIは規定審議会の簡素化と改定スピードアップを図らなければならないだろう。

5. RCの歴史的優位性、理念、ブランド

日本のRCは1920年創立だがLCは1952年誕生。32年の差=戦前・戦後の差によって、RCは財閥系から広まり、LCは中小企業を中心に広がった。「32年間のアドバンテージ」は戦前主要都市でRCがすでに設立されたことは歴史的な資産であり、「東京RCを代表としたLCが持っていない高いブランド価値」⇒ステータスがある。

「職業人の社交クラブ」のアンチテーゼ「奉仕団体=ライオンズ」との明確な組織原理の違い、「会員・家庭・職場・地域社会・国際社会」に対する「ロータリーが明確に提示するメリット」、そして「例会を通じた人作り」等々がある。

6. クラブ会員にとってのクラブ

ロータリーは；・自己を成長させる(心を磨く)・職業上のメリットを感じる・自分事業の発展(精神的・物質的互惠)・職業人の友情・友愛などを実感できるロータリーのあり方、ロータリーの存在意義を認識し、強調すべきである。

未来への対応をしっかりと取りましょう!

この後、RI会長代理・会長・幹事懇談会が開催され、最後に私たちはRI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会に参加しました。席上、細川ガバナーより地区で受け付けた「北海道胆振東部地震災害義捐金」を第2510地区小山司ガバナーに寄託いたしました。

なお、藤田委員長は今大会の合間にインターアクトクラブの拡大と短期海外研修について、特に3590地区、H31年1月の韓国との青年交流とインターアクトについて、帯広に十分考えてもらうべく行動していました。

ニコニコ BOX

前島 英樹 親睦活動委員

金谷正一君 結婚記念日 5,000円
2018-19年度合計 合計 189,400円

☆閉会点鐘：遠藤 利秀 会長
☆今月会報担当：加藤幸徳委員長

2018-19_15th-03

出席報告	例会日	会員数	出席計算 会員数	出席者数	メイク アップ	出席率	無断欠席	編集・発行：メディア委員会	
	須藤順一 出席委員長	10月18日	41	38	23	6	76.3%		委員長：加藤幸徳
10月25日		41	38	27		71.1%		委員：佐久間英昭 本間克明 西 清治 竹内徳治 東海林勉	

2018-2019年度 国際ロータリー

会長：バリー・ラシン(イーストナッソーRC)
第2500地区ガバナー 細川吉博(帯広北RC)
第4分区分ガバナー補佐 山市喜雅(紋別港RC)

遠軽ロータリークラブ www.engaru-rc.com

会長：遠藤利秀 副会長：金谷正一
会長エレクト：渡辺 勉 幹事：東海林勉
会計：島田光隆 SAA：上田 稔
直前会長：成田弘明 事務局員：佐藤郁子
◇1959年9月12日創立/1959年11月7日認証

【事務局】〒099-0415 北海道紋別郡遠軽町岩見通南2丁目 遠軽商工会議所内
Tel 0158-42-5201 Fax 42-5134 E-mail: info@engaru-rc.com
【例会場/日】北海道紋別郡遠軽町大通北1丁目 ホテルサンシャイン Tel 0158-42-1151 毎週木曜日12:30～13:30 *第3木曜日は夜間例会 18:00～(19:00)

